

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地			
北海道芸術デザイン専門学校専門学校		昭和51年4月1日	館山 昭		〒001-0024 札幌市北区北24条西8丁目1-12 (電話) 011-756-0777			
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地			
学校法人 美専学園		昭和62年12月4日	高橋 英雄		〒001-0024 札幌市北区北24条西8丁目1-12 (電話) 011-756-0777			
分野	認定課程名	認定学科名			専門士	高度専門士		
文化・教養	文化教養専門課程	産業デザイン学科(グラフィックデザイン専攻)			平成7年1月23日 文部省告示第7号	—		
学科の目的	産業デザイン学科(グラフィックデザイン専攻)の各分野に関するプロ養成に必要な、「基礎から実践」までを教育することを目的とし、次の事項に重点的に取り組む。 ・各分野のプロになるための技術や知識を学ばせ就職させる。 ・いかに学生・保護者・就職先企業等のニーズに応えるか、各分野における諸課題を主体的・創造的に研修し、実務的な職業教育を施す。							
認定年月日	平成26年3月31日							
修業年限	昼夜	講義	演習	実習	実験	実技		
	昼間						2400単位時間	90単位時間
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
360人		70人	0人	2人	18人	20人		
学期制度	■前期:4月1日～9月26日 ■後期:9月27日～3月31日		成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 授業担当教員が課題の成果・提出状況・出席状況等を総合的に評価する。 教育指導計画にしたがって、授業科目を履修し、その成果が満足できると認められるときは、各学年課程の修了・進級または卒業を認定する。			
長期休み	■学年始め:4月1日～4月9日 ■夏季:7月24日～8月19日 ■冬季:12月19日～1月15日 ■前期末:9月16日～9月26日 ■学年末:3月2日～3月31日		卒業・進級条件		■課外活動の種類 北海道私立専修学校各種学校連合会札幌支部体育事業の参加、学園祭等の実行委員会等			
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 面談及び保護者との連携		課外活動		■サークル活動: 無 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報)			
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成29年度卒業生) 広告・印刷・出版・Web 他		主な学修成果(資格・検定等)※3		資格・検定名			
	■就職指導内容 一年次より就職ガイダンスを開催。二年時には就職課、担任を含めた三者面談を複数回行う。				種	受験者数	合格者数	
	■卒業生数 : 27 人				色彩士検定	③	30人	27人
	■就職希望者数 : 23 人				ビジネス能力検定	③	26人	23人
	■就職者数 : 22 人				Illustratorクリエイター能力認定試験スタンダード	③	12人	11人
	■就職率 : 95.7 %				Photoshopクリエイター能力認定試験スタンダード	③	17人	15人
■卒業生に占める就職者の割合 : 81.5 %		※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)						
■その他 ・進学者数: 人 ・〇〇〇〇〇		■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等 ・第5回百合が原音楽祭ポスターデザイン最優秀賞 ・JAGDA学生グランプリ2017 入選4名 ・日本・アジア学生パッケージデザインコンペティション2017国内決勝入選2名、佳作1名 ・ペーパージョブサクマ販促キャンペーン最優秀賞 ・日本タイポグラフィ年鑑2018入選2名						
(平成 29 年度卒業生に関する平成30年5月1日 時点の情報)								
中途退学の現状	■中途退学者 1 名 平成29年4月1日時点において、在学者68名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者67名(平成30年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由		■中退率 1.4 %					
■中退防止・中退者支援のための取組 補習の実施と保護者への連絡・連携、一般課程への転科の実施等								
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有・無 パブリック奨学金制度、スカラシップ奨学金制度、交換留学奨学金制度等 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象・非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載							
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有(無) ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)							
当該学科のホームページURL	<a href="http://bisen-g.ac.jp/specialty/graphic/">http://bisen-g.ac.jp/specialty/graphic/</a>							

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄とさせていただきます

## 2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

## 3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係																																																																			
(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針																																																																			
本校の教育目標「各専攻における専門教育および職業教育の確立」を達成するために、指導内容や各種特別活動等を総合的に組織する一連のPDCAサイクルにおいて、教育課程編成委員会でその教育効果を検証し、企業等委員からの意見・助言を取り入れ、開設科目編成や授業内容の改善等を図っていくものとする。																																																																			
(2)教育課程編成委員会等の位置付け																																																																			
年2回開催される本委員会は、委嘱委員から経営者等としての視点による助言を受け、即戦力となる人材育成のために、学生がインターンシップや職場体験、現場見学等を経験できる機会を創出する等、社会人としての基礎力および実務スキル向上につながる授業内容や指導方法の改善に取り組むための、意見交換および教育効果検証の場として位置付ける。 ※別紙1参照																																																																			
(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿																																																																			
平成30年7月31日現在																																																																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>名前</th> <th>所属</th> <th>任期</th> <th>種別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>佐野 公康</td> <td>(株)デービス 代表取締役</td> <td>平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)</td> <td>③</td> </tr> <tr> <td>西村 昌実</td> <td>北海道イラストレーターズクラブα 会長</td> <td>同上</td> <td>①</td> </tr> <tr> <td>谷本 智之</td> <td>(株)エクステデザイン 代表取締役社長</td> <td>同上</td> <td>③</td> </tr> <tr> <td>内藤 卓也</td> <td>(株)ジュリアジャパン 取締役社長</td> <td>同上</td> <td>③</td> </tr> <tr> <td>内村 喜憲</td> <td>(株)北海道インテリアプランナー協会 会長</td> <td>同上</td> <td>①</td> </tr> <tr> <td>山腰 信吉</td> <td>札幌貴金属工芸組合 会長</td> <td>同上</td> <td>①</td> </tr> <tr> <td>中山 眞琴</td> <td>(株)ANAナカヤマ・アーキテクト 代表取締役</td> <td>同上</td> <td>③</td> </tr> <tr> <td>鈴木 理</td> <td>(株)鈴木理アトリエ一級建築士事務所 代表取</td> <td>同上</td> <td>③</td> </tr> <tr> <td>館山 昭</td> <td>北海道芸術デザイン専門学校 校長(委員長)</td> <td>同上</td> <td></td> </tr> <tr> <td>高橋 美絵</td> <td>同 教務部長</td> <td>同上</td> <td></td> </tr> <tr> <td>飯塚 哉子</td> <td>同 学務部長・環境デザイン学科長</td> <td>同上</td> <td></td> </tr> <tr> <td>高畑 文一</td> <td>同 産業デザイン学科長</td> <td>同上</td> <td></td> </tr> <tr> <td>田中 政史</td> <td>同 マルチメディアデザイン学科長</td> <td>同上</td> <td></td> </tr> <tr> <td>本間 健一</td> <td>同 建築デザイン学科長</td> <td>同上</td> <td></td> </tr> <tr> <td>石川 恭行</td> <td>同 総務部長・就職課長</td> <td>同上</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				名前	所属	任期	種別	佐野 公康	(株)デービス 代表取締役	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	③	西村 昌実	北海道イラストレーターズクラブα 会長	同上	①	谷本 智之	(株)エクステデザイン 代表取締役社長	同上	③	内藤 卓也	(株)ジュリアジャパン 取締役社長	同上	③	内村 喜憲	(株)北海道インテリアプランナー協会 会長	同上	①	山腰 信吉	札幌貴金属工芸組合 会長	同上	①	中山 眞琴	(株)ANAナカヤマ・アーキテクト 代表取締役	同上	③	鈴木 理	(株)鈴木理アトリエ一級建築士事務所 代表取	同上	③	館山 昭	北海道芸術デザイン専門学校 校長(委員長)	同上		高橋 美絵	同 教務部長	同上		飯塚 哉子	同 学務部長・環境デザイン学科長	同上		高畑 文一	同 産業デザイン学科長	同上		田中 政史	同 マルチメディアデザイン学科長	同上		本間 健一	同 建築デザイン学科長	同上		石川 恭行	同 総務部長・就職課長	同上	
名前	所属	任期	種別																																																																
佐野 公康	(株)デービス 代表取締役	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	③																																																																
西村 昌実	北海道イラストレーターズクラブα 会長	同上	①																																																																
谷本 智之	(株)エクステデザイン 代表取締役社長	同上	③																																																																
内藤 卓也	(株)ジュリアジャパン 取締役社長	同上	③																																																																
内村 喜憲	(株)北海道インテリアプランナー協会 会長	同上	①																																																																
山腰 信吉	札幌貴金属工芸組合 会長	同上	①																																																																
中山 眞琴	(株)ANAナカヤマ・アーキテクト 代表取締役	同上	③																																																																
鈴木 理	(株)鈴木理アトリエ一級建築士事務所 代表取	同上	③																																																																
館山 昭	北海道芸術デザイン専門学校 校長(委員長)	同上																																																																	
高橋 美絵	同 教務部長	同上																																																																	
飯塚 哉子	同 学務部長・環境デザイン学科長	同上																																																																	
高畑 文一	同 産業デザイン学科長	同上																																																																	
田中 政史	同 マルチメディアデザイン学科長	同上																																																																	
本間 健一	同 建築デザイン学科長	同上																																																																	
石川 恭行	同 総務部長・就職課長	同上																																																																	
※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。																																																																			
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)																																																																			
②学会や学術機関等の有識者																																																																			
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員																																																																			
(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期																																																																			
開催頻度:年二回      開催時期:8月下旬および2月上旬																																																																			
(開催日時)																																																																			
第1回 平成30年8月29日 16:00～18:00																																																																			
第2回 平成31年2月1日 16:00～18:00(予定)																																																																			
(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況																																																																			
※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。																																																																			
第1回教育課程編成委員会で出された「学生のポートフォリオは、他校よりレベルが高いことをアピールする有効なツール。更なる指導強化を」という助言を踏まえ、従来から2年次「応用技術演習Ⅰ」「デザイン演習」等の授業で取り組んできた、企業連携による実践的な課題制作の成果物をどのように効果的に見せるのか、1年次後期の担任授業内で早めにポートフォリオの具体的な制作プロセスの指導を始めることで、2年次に向けた意識付けの強化を図っているところである。																																																																			
2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係																																																																			
(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針																																																																			
本校の教育目標「各専攻における専門教育および職業教育の確立」達成のため、各専攻関連分野の企業および業界団体と連携し、実践的な職業教育の実施に必要なカリキュラムの作成、講義および研修の実施、各種教材の作成等において、緊密な協力体制を構築・維持するものとする。																																																																			
(2)実習・演習等における企業等との連携内容																																																																			
・職業教育協定書に基づき、各専攻関連分野の企業および業界団体から、各専門分野の指導講師として人材の派遣を受ける。																																																																			
・担当教科目の指導計画について事前に協議し、各教科目のねらいに沿って授業内容や実施方法、評価の観点等についてまとめた指導計画書(シラバス)を作成し、指導講師と教務部で情報を共有する。																																																																			
・学修成果の評価指標・手法についても予め協議し、演習終了後には指導講師による学生の学修成果の評価を踏まえ、担当教員が成績評価・単位認定を行う。																																																																			
(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。																																																																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>科目名</th> <th>科目概要</th> <th>連携企業等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>DTP演習</td> <td>中綴小冊子の企画から実制作を通して、Adobe IllustratorとPhotoshopを使用したデジタル入稿から校正・製本までのプロセスの理解と、必要な情報を視覚的に分かりやすくレイアウトする紙面構成のトレーニングを目的として、実務を手掛ける講師の指導の下、演習を行う。担当教員が企業と課題に関する事前打ち合わせを行い、演習における指導方法・評価方法・教材等に必要な情報提供を受け、準備を進める。また、演習終了後には、学生の学習成果の評価を踏まえ、さらなる改善、工夫の助言を得るとともに、担当教員により5段階評価を行う。実務とワークフローの理解のために企業訪問・工場見学を実施し、製造工程の理解を深めさせる。</td> <td>白馬堂印刷株式会社</td> </tr> </tbody> </table>				科目名	科目概要	連携企業等	DTP演習	中綴小冊子の企画から実制作を通して、Adobe IllustratorとPhotoshopを使用したデジタル入稿から校正・製本までのプロセスの理解と、必要な情報を視覚的に分かりやすくレイアウトする紙面構成のトレーニングを目的として、実務を手掛ける講師の指導の下、演習を行う。担当教員が企業と課題に関する事前打ち合わせを行い、演習における指導方法・評価方法・教材等に必要な情報提供を受け、準備を進める。また、演習終了後には、学生の学習成果の評価を踏まえ、さらなる改善、工夫の助言を得るとともに、担当教員により5段階評価を行う。実務とワークフローの理解のために企業訪問・工場見学を実施し、製造工程の理解を深めさせる。	白馬堂印刷株式会社																																																										
科目名	科目概要	連携企業等																																																																	
DTP演習	中綴小冊子の企画から実制作を通して、Adobe IllustratorとPhotoshopを使用したデジタル入稿から校正・製本までのプロセスの理解と、必要な情報を視覚的に分かりやすくレイアウトする紙面構成のトレーニングを目的として、実務を手掛ける講師の指導の下、演習を行う。担当教員が企業と課題に関する事前打ち合わせを行い、演習における指導方法・評価方法・教材等に必要な情報提供を受け、準備を進める。また、演習終了後には、学生の学習成果の評価を踏まえ、さらなる改善、工夫の助言を得るとともに、担当教員により5段階評価を行う。実務とワークフローの理解のために企業訪問・工場見学を実施し、製造工程の理解を深めさせる。	白馬堂印刷株式会社																																																																	

<p>基礎技術演習Ⅱ 応用技術演習Ⅰ</p>	<p>モノ・コト作りの根源であるコンセプトの概念とコンセプトメイキングを体験的な学習で理解し、グループ学習で概念の共有やチームワークの大切さを学ぶ。演習課題制作を通じてコピーワーク・レイアウト・グリッドシステム等の実践的手法を体験するとともに、論理的思考とその可視化や、表現のアイディア化を実現させる。また、アートディレクターやグラフィックデザイナーにとって重要な着眼点・独創性を磨き、表現の可能性を模索させると同時に、完成作品を効果的にプレゼンテーションするスキルの向上を目指す。</p>	<p>公益社団法人 日本グラフィックデザイナー協会</p>
<p>表現技法演習</p>	<p>企業担当者からのオリエンテーションを踏まえ、企業における広報活動の目的・機能について学びながら、ターゲットに訴求できる販売促進広告（ノベルティ含む）の企画・制作を行うため、実務を手掛ける講師の指導の下、演習を行う。演習修了後には、学生の学習成果の評価を踏まえ、さらなる改善、工夫の助言を得るとともに、担当教員により5段階評価を行う。完成した課題を企業へプレゼンテーションして現場の評価を受けるとともに、同企業店舗内にて共同授業成果展示会を行う。</p>	<p>株式会社サクマ</p>
<p>デザイン演習 表現技法演習</p>	<p>デザイン業界・印刷業界における印刷原稿の制作方法や、テーマに対してコンセプトを設定し効果的なビジュアル表現方法やレイアウトを目的に学び、デザイン表現に対する意識を深める。作業プロセスと入稿データを制作する際に注意すべき点をふまえて、印刷に適したデータ制作を行えるスキルを身につける。担当教員がクライアント側と事前に打ち合わせを行い、演習内容、学生の学修成果の達成度評価指標などについて定める。演習修了後には学修成果の評価を踏まえ、担当教員により5段階評価を行う。制作された作品についてクライアントによる審査・一般市民による投票を経て選定の後、総括を行い、評価の高い作品はポスターとして印刷され、市内各所に掲示される。</p>	<p>札幌アートディレクターズクラブ</p>
<p>応用技術演習Ⅱ</p>	<p>コピーライティング・CMプランニング・セールスプロモーションプランニング・キャンペーンプランニング等、広告制作において、幅広い視野をもち、戦略的かつ効果的な広告企画を展開できる実践方法を学ぶ。演習課題制作を通じて、ビジュアル撮影やコピーワークも含めた、総合的な広告制作のノウハウとテクニックを身に付け、一つの着地点に対して多面的なアプローチができる習慣を身に付けさせる。</p>	<p>有限会社 クォーターバッククリエイティブ</p>

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係			
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針			
<p>本校教職員研修規程に基づき、研修は、教職員が現在就いている職に係わる職務の遂行に必要な知識、技能、資質等の向上を図ることを目的とし、そのため教職員の資質に応じた研修計画を策定し、校内外で催される必要な研修を受ける機会を学園として認め、経費を負担することとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員は、業務に支障のない限り、理事長の承認を受け校外の産業現場等、勤務場所を離れて研修を行うことができるものとする。</li> <li>・各専攻関連分野の業界団体主催による各種技能研修や、ICT機器・アプリケーションソフト関連セミナー等の受講機会を確保し、最新の実務知識・技術・技能の計画的修得および向上に努める。</li> <li>・授業および学生に対する指導力向上のため、各種職能団体が運営する指導員研修への参加や、所定の年度に大学等で実施される教員免許更新講習等を受講する機会を確保する。</li> </ul>			
(2) 研修等の実績			
<p>①専攻分野における実務に関する研修等</p> <p>【株式会社サクマとの連携に付随し、特殊紙関連の専門知識を取得する趣旨の研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「特殊紙・特殊板紙を使用した優秀作品展覧会」(対象: デザイン関係者/内容: 紙媒体のトレンドを俯瞰/期間: 2018年8月6日～10日)</li> </ul> <p>【地域デザイナーの最新業務や業界の歴史を把握する趣旨の研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「北海道だからそのブランドづくり」(対象: デザイン関係者/内容: 食・観光・まちづくり・教育/期間: 2018年7月27日)</li> <li>・「デザインを活用した商品開発セミナー」(対象: デザイン関係者/内容: 商品開発におけるデザインの重要性・知的財産の管理運用/期間: 2018年8月9日)</li> </ul> <p>②指導力の修得・向上のための研修等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年度第1回文部科学大臣認定「職業実践専門課程」に係る研修会 (対象: 教育関係者/内容: 職業意識を高めるコミュニケーション/期間: 2018年7月24日)</li> <li>・New Education Expo2018「専門職大学時代に向け、授業集中度の数値データ等、学生ビッグデータを用いた産学連携を考える」(対象: 教育関係者/内容: 教育改革/期間: 2018年6月7日)</li> <li>・New Education Expo2018「専門職大学等の概要と今後の展望について」(対象: 教育関係者/内容: 教育改革/期間: 2018年6月8日)</li> <li>・New Education Expo2018「AIの時代に求められる資質・能力とは?～アクティブラーナーを育てる教育改革～」(対象: 教育関係者/内容: 教育の情報化/期間: 2018年6月8日)</li> </ul>			
(3) 研修等の計画			
<p>①専攻分野における実務に関する研修等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・札幌アートディレクターズクラブコンペティション&amp;アワード2018(対象: デザイン関係者/内容: 公開審査/期間2018年9月16日)</li> <li>・JAGDA HOKKAIDO POSTER EXHIBITION 2018(対象: デザイン関係者/内容: 地元デザイナーの動向/期間: 未定)</li> <li>・日本・アジア学生パッケージデザインコンペティション2018(対象: 教育関係者/内容: パッケージデザインを通じた国際交流/期間: 2018年12月)</li> </ul> <p>②指導力の修得・向上のための研修等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年度第2回文部科学大臣認定「職業実践専門課程」に係る研修会(対象: 教育関係者/内容: 未定/2018年12月)</li> </ul>			
4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係			
(1) 学校関係者評価の基本方針			
自己評価と学校関係者評価を実施することで、学校の現状と課題を的確に具体的に把握して学校運営の改善、強化を目指すものである。また、同時に関係する業界、企業等との信頼関係を深めることを基本の方針としている。			
(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応			
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目		
(1) 教育理念・目標	学校の教育理念・目的・人材育成は明確になっているか		
(2) 学校運営	教育活動に関する情報公開がなされているか		
(3) 教育活動	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか		
(4) 学修成果	就職率の向上が図られているか		
(5) 学生支援	学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか		
(6) 教育環境	防災に対する体制は整備されているか		
(7) 学生の受入れ募集	学生募集活動は適性に行われているか		
(8) 財務	財務について会計監査が適性に行われているか		
(9) 法令等の遵守	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか		
(10) 社会貢献・地域貢献			
(11) 国際交流	留学生の受け入れ・派遣について戦略を持っておこなっているか		
※(10)及び(11)については任意記載。			
(3) 学校関係者評価結果の活用状況			
「地域とのつながり等で、子供たちにデザインの楽しさを知ってもらう活動に学校が一役買える」との助言を踏まえ、小学生以下を対象とした「ものづくりワークショップ」の企画・運営を実施した。また、「各専攻の卒業生の活躍について更なる情報発信を」との助言をもとに、教育効果の成果である卒業生の仕事ぶり等を発信していく方法として、SNS等の新たな活用方法を検討中である。			
(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿			
平成29年10月31日現在			
名前	所属	任期	種別
河村和義	(株)アトリエK-級建築士事務所	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	企業関係者
櫻井俊二	(有)I.B.DESIN	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	卒業生
山森鉄雄	山森鉄雄司法書士事務所	平成30年11月1日～平成31年3月31日(1年)	企業有識者
細木 実	ほそき整骨院	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	卒業生
※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。 (例)企業等委員、PTA、卒業生等			
(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期 (ホ<u>ムベ</u>ジ・広報誌等の刊行物・その他( ) ) 公表年月日: 2017年12月7日 URL: <a href="http://www.bisen-g.ac.jp">http://www.bisen-g.ac.jp</a> (北海道芸術デザイン専門学校) <a href="https://www.iyaku.ac.jp">https://www.iyaku.ac.jp</a> (北海道医療専門学校)			
5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係			

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針	
学校の状況(課題や教育活動の取組)を広く理解してもらい、さらに企業等との信頼関係を深める。	
(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応	
ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	経営方針、学校の特色、人材育成の特色
(2)各学科等の教育	カリキュラム、収容定員、学修成果
(3)教職員	各教員の担当科目、教員の専門に関する情報
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職支援への取組状況、実習等の取組情報
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事への取組状況
(6)学生の生活支援	学生支援への取組状況
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金の取扱
(8)学校の財務	収支計算書
(9)学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果
(10)国際連携の状況	留学生の受け入れ・派遣状況
(11)その他	
※(10)及び(11)については任意記載。	
(3)情報提供方法	
(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )	
URL: <a href="http://www.bisen-g.ac.jp">http://www.bisen-g.ac.jp</a> (北海道芸術デザイン専門学校) <a href="https://www.iyaku.ac.jp">https://www.iyaku.ac.jp</a> (北海道医薬専門学校)	

授業科目等の概要

(文化教養分野専門課程 産業デザイン学科(グラフィックデザイン専攻) 平成30年度)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			一般教養	社会人として求められる知識・常識を身につけ、就職活動に備えて自己分析を突き詰め、履歴書やエントリーシート、面接対策、自己PR、プレゼンテーション、文章表現を強化する。ビジネス能力検定対応。	1後期	30	1	○	△		○	○	○		
○			英会話	交換留学生とも気軽にコミュニケーションがとれるように初歩的な英語の運用能力を養うと同時に、デザインに関連した英文・英単語の使用例を通して、作品制作や卒業後の仕事においても役立つようにリーディング力・語彙力を向上させる。	1前期	30	1	○			○			○	
○			デザイン概論	校外学習での展覧会見学を通して、ビジュアルやコピーライティングを含めた広告・デザイン関連の知識を身につけ、実制作に役立たせる。	1前期	30	1	○	△		○	○	○		
○			色彩学	美術の歴史から学び取れるデザインの造形要素とともに、デザインの構成要素である点線面の特性と色彩表現における効果的な配色の知識を学び、構成力と表現力をトレーニングする。各種印刷物やパッケージに用いられる紙についてその素材特性や加工方法を通年で学習する。	1前期	30	1	△	○		○		△	○	
○			美術史		1前期	30	1	△	○		○		○		
○			デッサン		1前期	30	1	△	○		○			○	
○			基礎技術演習 I	様々な画材や素材の特性を活かし、媒体特性やコンセプトを踏まえ効果的なビジュアル表現が出来る力を養う。また、平面構成、配置レイアウトの基礎トレーニングを重ね、デザインワークに必要な基礎技術を習得し柔軟な発想力を養うとともに、カラー印刷の原理や各種印刷方法を学習する。パソコンのOSやAdobe Illustrator、Photoshop等主要アプリケーションソフトの操作方法、データ管理等の情報リテラシーを学習し、複数のソフトを連動させながら基礎的な紙面レイアウトができるスキルを身につける。	1通年	240	8			○	○			○	

○		基礎技術演習Ⅱ	対象をよく観察しフォルムを的確に捉えて自然な空間表現ができる力を養う。また、コンセプトの概念や、タイポグラフィの基礎知識や表現方法を学ぶとともに、情報を整理しレイアウトする紙面構成のトレーニングを行う。課題制作を通して印刷会社へデジタル入稿し、校正・製本までのプロセスの理解と、就職後の実務に耐えうる力をつける。	1 通年	240	8				○	○					○	○
○		専門技術演習Ⅰ	平面構成、配置レイアウトのトレーニングを重ね、言葉の持つ表現力についてコピーライティングの意識を高めながら、クリエイターとして求められる柔軟な発想力を養う。デジタル表現の幅を広げるとともに、進級制作およびアプリケーションソフトの検定受験に備えてスキルアップを図る。	1 前期	120	4				○	○					○	
○		専門技術演習Ⅱ	デジタルカメラの操作と撮影の基本的なテクニック、グラフィックデザインにおける写真表現の特性について学習し、ポスターや新聞広告等の媒体を設定し、実践的な課題制作を通じてコンセプトメイキングからデータ制作を中心としたフィニッシュワークまで行える応用力を養う。Webデザインについての基礎知識およびWebデザインならではの仕組みを理解し、サイトとして求められるデザインの企画・制作を実践する。	1 後期	120	4				○	○					○	
○		DTP演習	Adobe PhotoshopとIllustratorの応用技術を習得しデジタルにおける表現の幅を広げるとともに、進級制作およびアプリケーションソフトの検定受験に備えてスキルアップを図る。	1 後期	30	1				○	○					○	
○		前期課題制作	夏期休業中に複数の課題制作を行い、必要な資料を収集する能力や、多様な視点から発想を広げて様々なアイデアを出すトレーニングを行う。	1 前期	30	1				○			○	○			



○		後期課題制作	冬期休業中に、進級制作に備えて必要な資料の収集を行うと同時に、与えられたテーマに対してコンセプトメイキングやラフデザイン制作、ビジュアル制作等を行う。	1 後期	30	1		○		○	○			
○		コンペ課題制作	各担当講師の指導の下、応募するコンペを設定して積極的に出品することにより、オリジナルな表現を追及すると同時に、就職活動用のポートフォリオの充実を図る。	1 後期	30	1		○		○	○	○	○	
○		進級制作	1年間の総まとめとして、専攻色を活かしたポスター・新聞広告・タイポグラフィ・パンフレット等を企画・制作する。テーマに基づき定められた期日までに各自が集中して課題制作を行い、その成果を問う。	1 後期	180	6		○		○	○	○	○	
○		色彩応用	視覚的な情報を分かりやすく表現するための考察と、自己を取りまく環境に対しての問題意識を高め、配色の知識を応用しながらピクトグラム、マップ、サインデザインなどの課題制作を通じて、グラフィックデザインがコミュニケーションに果たす役割について理解を深める。	2 前期	30	1		○		○			○	
○		各種技術論		2 前期	60	2		○		○			○	
○		各種概論	企業と消費者をコミュニケーションするデザインの重要性や、著作権商標などの各種知的財産に関する基礎知識について学習する。また、ポスター、フライヤー、DMなど様々な紙媒体を想定したセールスプロモーションツールの企画・制作を通して、ディレクションできる力と表現スキルを養い、アプリケーションソフトを用いたトータルな制作を行う。企業との連携を図り、実務的な広告媒体制作とプレゼンテーションを行うことで、グラフィックが社会における役割を考えた表現方法と実制作を行う力を身につける。	2 前期	30	1		○		○			○	
○		デザイン演習	様々な設定下における実践的な課題演習を通じて、コンセプトワークからフィニッシュまでの制作プロセスについて学び、企業活動において広告制作が持つ意味について理解を深める。ページレイアウトソフトInDesignのスキル習得も目指す。	2 前期	120	4		○		○			○	○
○		材料学		2 前期	30	1		○		○				○
○		表現技法演習	自立した職業人を目指したビジネススキルと自己プレゼンテーションする力の向上を目指し、履歴書やエントリーシート、ポートフォリオを制作する。また、企画・編集・デザイン・印刷はもちろん、企業に対するプレゼンテーションや資料・文書作成など幅広い分野において必要なディレクションDTPの知識を学習し、Adobe Illustrator、Photoshopの各種アプリケーションソフトの応用スキルを習得、各種就職活動ツール制作に役立てる。	2 前期	60	2		○		○			○	
○		プレゼンテーション		2 前期	120	4		○		○			○	○

○		応用技術演習Ⅰ	印刷物制作のワークフローを理解し、Adobe Illustrator、Photoshop、InDesignの各種アプリケーションソフトを使用して、広告や雑誌媒体、パッケージデザイン等の入稿用データの制作スキルを習得する。またアイデアを形にする際、表現の幅を広げるテクニックを身につける。	2前期	120	4	○	○	○	○
○		応用技術演習Ⅱ	デザイン制作における様々な表現手法を学ぶとともに、シルクスクリーンの印刷技法、WebデザインにおけるHTML/CSSコーディングに配慮したデザインデータ制作、広告媒体制作における表現の監修やアートディレクション、ライティングや演出などワンランク上の撮影テクニックの習得、ブランディングデザイン等、選択制により各分野で専門的に学ぶ。	2前期	120	4	○	○	○	○
○		前期課題制作	夏期休業中に複数の課題制作を行い、必要な資料を収集する能力や、多様な視点から発想を広げて様々なアイデアを出すトレーニングを行うとともに、卒業制作のテーマに基づいて研究を深めてアイデアを形にする。	2前期	30	1	○	○	○	○
○		コンペ課題制作	各担当講師の指導の下、応募するコンペを設定して積極的に出品することにより、オリジナルな表現を追及すると同時に、就職活動用のポートフォリオの充実を図る。	2前期	30	1	○	○	○	○
○		卒業制作	在学中に学んだ専門知識や技術を十分に活かして、自らテーマ設定し、定められた期日までに集中的に制作を行い、学内審査及び外部審査員による賞選考会を実施して、その成果を問う。	2前期	450	15	○	○	○	○
合計			27科目	2400単位時間(80単位)						

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
各学年の教科目を履修・修得し、卒業制作の審査に合格した者は、第2学年の課程の修了が認められ、卒業が認定される。卒業時必要履修授業時数2,400単位時間。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。